広報 南国
編集発行 南国市役所 電話(代表)451番
印刷所 安岡印刷所

広報は…………みんな
読むもの…………つくるもの

四億二千三百万圓
臨時議会で市税税率なども議決

南国市臨時議会は五月二十八日開会。

三十五年度第一次追加更正予算、一般職の職員給与条例ならびに市税徴収条例の一部改正、財産の取得、同売買など八議案を各常任委員会に付託して審議し、三十一日原案どおり採決した。

これにより市の才入出予算は四億二千三百三十五万円(追加一億二千七十四万円)となつた。

また市税の所得割り税率は五万円以下百分の一・七、五万円を越える額同二・六、十万円を越える額同三、十五万円を越える額同三・五、二十万円以上を越える額同四、三十万円を越える額同四・五、四十万円を越える額同五、七十万円を越える額同六、百万円を越える額同七となつた。

予算の内容次のとおり。

(単価千円)

更正 才入出

(才入)
市税八七、〇五六(増一、五〇〇〇)地方交付税八五、〇〇〇(〇)公営企業および財産収入一四、三〇〇(増一、二〇〇)分担金および負担金九、八四一(〇)使用料および手数料一、八八九(〇)国庫支出金七四、九三二(増二五〇)県支出金一〇、四一三(同八一九)寄付金二、一六六(同六六五)市債一四、四〇〇(〇)雑収入一二三、三五〇(増一一六、三〇三)

(才出)
議会費八、七七八(増五)市役所費五五、七五〇(同二、五一二)消防費五、二一四(同二五〇)土木費二九、六六八(〇)教育費六八、〇五六(増一、四二〇)社会および労仂施設費八六、六六九(〇)保健衛生費五、二六〇(〇)産業経済費八、九二一(増六二三)財産費二、〇七五(〇)統計調査費七七三(増二五〇)

よい子たちを 農薬から守る

市教育委員会は六月初め市内の小学校長あてに、児童がホリドールの中毒にかからないよう注意されたいと指示した。

現在農家は水稲の害虫駆除のため一斉にホリドール(パラチオン剤)を使用しており、無心な児童たちは危険にさらされている。市教委では対策としてホリドールを使つたことをあらわす赤い標識の立つた田には絶対にはいらぬよう、また、稲などにさわらぬよう呼びかけることになつたもの。

国府川土手

アメリカで働く
中橋・高山両君旅立つ

派米農業労務者として県の選考をとおつた稲生・中橋豊、長岡・高山龍男両君はさつき晴れの五月三十日、多くの人たちに見送られて高知駅から旅立つた。両君は東京で一週間の訓練を受けてからカリホルニヤ州に渡り、三年間農業労務者として仂くことになつている。

この間の収入は五、六十万円になる見込み。なお市からはすでに三十二年に渡米した永田の吉田誠夫君が帰国し、昨年は上陸内の岡田君も渡米、海外勇飛の熱は高まつている。

延滞金と延滞加算金をとる

市では三十五年度から納税期限を経過した市税については延滞金(期限の翌日から納付日まで百円に付き一日三銭の割り)と延滞加算金(督促状を出した日から十一日目より納付の日まで百円に付き一日三銭の割り)で本税に加算して徴収することを決め、実行する。

ブラジルゆきの 青年をつのる

県ではブラジルにいく農村の青、壮年を次の条件で募集している。

人数＝二十人(全国)
時期＝三十五年八月
期間＝十五カ月(渡航日数をふくむ)

資格
1、現に農業に従事するか直接農業技術の指導者
2、年令二十五才以上三十五才未満の身体強健な者
3、新制高卒業または同等学力のある者
4、身長一六〇m、体重五五kg

経費
渡航補助費四二一、五〇〇円の内国費補助二〇八、五〇〇円、二一三、〇〇〇円は市町村、公共団または応募者負担とする。

応募期間
昭和三十五年六月二十日応募提出書類県必着

中央選考
三十五年六月三十日東京において身体検査作文を行う。

渡航
昭和三十五年八月一日集合、八月四日横浜出帆

準急"土佐"の停車を陳情

さる三月から土讃線で運転中の準急三一一〇、三一〇九両列車(土佐)は後免駅に停車せず、不便が多いところから市では四月末、西村市長、野口議長名で矢山国鉄四国支社長に文書で善処方を要望していたが、地元後免町有志も立ちあがりこのほど町民代表の署名をとつて同様の陳情を行ない市発展のため実現させる準備を固めている。

被災地へ見舞

後免町社会福祉協議と大篠小学校は四日までに、チリ地震の津波で被災した人たちに見舞金を贈ることになり次のとおり高知新聞に寄託した。

社会福祉協議会一万四千七百八十円、大篠小四千五百三十円

担当部門と地区決まる
南国農業改良普及所

南国農業改良普及所では所員の担当部門と地区(小松所長全般)を次のとおり決めた。(カッコは特技)

鬼頭宗敬＝十市(そ菜園芸)、西内厚＝大篠(普通作)、池内辰雄＝長岡・後免(病虫害・そ菜園芸)、島内善二郎＝日章・前浜(畜産・そ菜園芸)、島崎寧一郎＝野田・岩・大津(そ菜園芸)、武市潔＝三和・稲生(普通作)、岩崎和＝岡豊・瓶岩(果樹)小笠原一猪＝久礼田・上倉(普通作)、関田友茂＝介良(病虫害)、山本常美＝国府(同)、橋田政猪＝岡豊・瓶岩・久礼田・国府(生活改善＝以下同)。吉村政美＝大篠・三和・前浜・稲生。安野節＝日章・十市・大津・介良。森田千恵子＝長岡・上倉・後免・野田・岩

文化財研究会発足

市では郷土史研究会や文化財保存会その他各地区の研究家によつて、南国市文化財研究会を結成した。市内には史蹟、文化財、天然記念物など貴重な資料が沢山あるが、これらの保存と施設の整備をするとともに先人の残した文化の跡を探究して市の文化向上と観光面に尽すのが狙いだ。役員次のとおり。

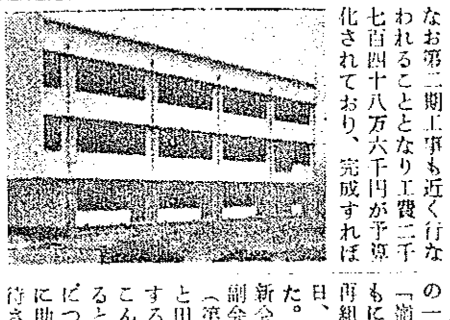
会長＝岩村元治(大篠)副会長＝浜田勇(日章)公文幸夫(国府)運営委員＝田中啓雄(岡豊)島本保義(瓶岩)山中浩気(後免)山島豊茂(長岡)山本丑吉(立田)井上司澄(稲生)会計＝山本知一(教委)監査＝西村信久(岡豊)浜田春水(前浜)

学校統合審議会をつくる

市内の小、中学校統合を研究調査するための学校統合審議会は近く組織されることになり市教委で準備を進めている。なお発足は六月議会で条例を決めなくてはならないから月末以後になるもよう。

香長中(一期工事)完成

総工費二千九百万円で工事中の香長中学校一期工事はこのほど完成し、稲生、十市両分室の生徒三百六十人が収容され、楽しい学園生活を送つている。新校舎は鉄骨コンクリートの三階建で普通教室九、特別室一、管理室四の計十四室。四国ではここだけという新しい建築様式が取り入れられている。なお第二期工事も近く行なわれることとなり工費二千七百四十八万六千円が予算化されており、完成すれば大篠、三和両分室の生徒が収容される。



＝写真は新装の香長中学校

会長に市長
嶺南会再発足

南国市発足前の旧町村の官公庁、各種団体代表、有志の一部で組織されていた「嶺南会」は、市発足とともに解消状態にあつたが、再組織の声が起りさる十一日、組織を強化して発足した。

新会長は市長の西村滋之氏副会長二人は七月定例会(第一水曜日)までに会長と田岡同会事務局長が選考する。

こんどの会も親睦をふかめるとともに市域の政治的面についても話合い、関係者に助言する方針で活躍が期待されている。

ケシの栽培は許可がいる!

ケシはアヘン法の規定によつて、免許を受けなければ観賞用としても栽培することができません。(一部例外あり)

植えて悪いもの
セチゲルム種＝日本には少い。
ソムニフェルム種＝花が大きく、大型(50~150cm)で葉も大きく、下葉はふちがノコギリ状で、葉のつけ根は茎を抱き込んでおり、葉や茎の色は白緑色でロウを塗つたようにみえます。
簡単にいうと植えて悪いものは葉に毛がありません。

植えて良いもの
シャリーポッピー種＝ヒナケシといわれよく知られている。
オリエンタルポッピー種＝ヒナケシよりいくらか大型で葉は深く切れ込み、全体が白いゴウ(剛)毛でおおわれています。

安保阻止で平和と民主を
……後免で安保阻止集会……

新安保条約は不安があり平和と民主主義を破壊すると南国市の民主団体、労組など、十九団体は六日、後免町日吉神社で「安保阻止国会解散集会」を開き、岸首相と清瀬衆院議長などに対する次の要旨の決議を行なつてから町の中心部をデモ行進し街頭署名運動などを行なつた。

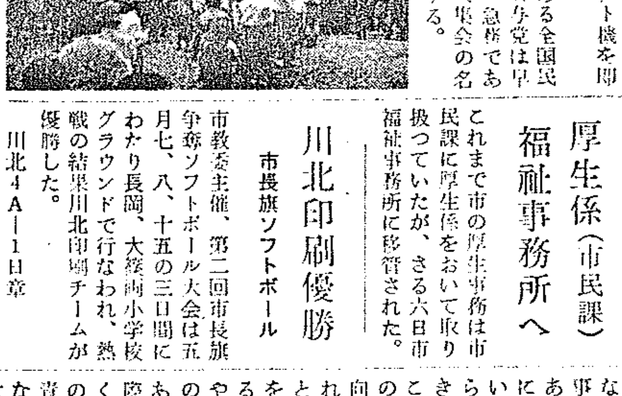
＝写真は日吉神社の集会風景

抗議文

国会に多数の暴力団と警官を導入し強行した会期延長と新安保の衆議員通過をわれわれは断じて正当なものと認めることは出来ない。新安保条約が国際緊張を増大し、国内においては軍事力の増強、生活の圧迫、民主的諸権利の抑圧、核兵器の持込、海外派兵の危険を生じ諸国民との友好を阻害する。然るに国会での審議も未だ充分なされず、議会主義を根底より否定し、戦后十五年にわたりつくられた民主主義の最大の危機を招くに致つた。その責任はあげて岸内閣及び与党にある。よつて

一、岸内閣の退陣と国会を即時解散すること
一、国会での決議はすべて五月十八日以前の段階へもどすことを確認せよ
一、U2型ジェット機を即時撤去させる

以上三点は良識ある全国民の声であり、政府与党は早急に処置すべきが急務である。我々はこの大集会の名に於て強く抗議する。



厚生係(市民課)福祉事務所へ

これまで市の厚生事務は市民課に厚生係をおいて取り扱つていたが、さる六日市福祉事務所に移管された。

川北印刷優勝
市長旗ソフトボール

市教委主催、第二回市長旗争奪ソフトボール大会は五月七、八、十五の三日間にわたり長岡、大篠両小学校グラウンドで行なわれ、熱戦の結果川北印刷チームが優勝した。

川北4A—1日章

稲生婦人学級へ
文部省の研究委嘱

稲生婦人学級(中沢道子会長)は三十五年度の文部省委嘱婦人学級の研究指定を受けた。

それとともにこのほど土長教育事務所、市教委事務局代表の助言を得て開設について話合い、一人もれなく参加するよう映画をもつて各部落を巡回し呼びかけている。

なお研究科目は婦人たちの希望によつて決めるようになつており、入学願書には夫、または家族の保証が必要。

何々の日とか何々週間、やれなんとか月間まアようそんな文句があるものだ。やれ今日は何の日か?思いだすのも実にまどろこしい。六月一日「電波の日」、四日「むし歯週間」……。▼ひどいのは七月だ「安全週間」から始り「夏の健康を守る運動」、「社会を明るくする運動」ともなれば七月一杯だ。よくぱつた話だが「自然に親しむ運動」ともなれば七月から八月にまたがつている。▼ようはそんな週間よりも実行することが大切ではないか、実行しないからうたい文句があらわれいやに目に付く、結局は社会をかたち作くる一人一人の自覚を待つより外にはない。四六時中いつもみんなが実際心に刻みこんで明るい社会でいなければならぬを育ててゆく事柄があまりにも多い。ための鉄則を守つてゆくならば、週間のない週間ができ、そのような絆はのけることができよう。▼青少年の犯罪がます／＼増加の傾向にある。子を持つ親の誰れもが考えのそんでいることは、真面目に成人し一家をたてゝもらうことである。そのような親の心にもやはりすき間がある。自分の子は大丈夫だという心である。▼勉強は勉強でも実際社会科の研究としやれてくる。自由は自由でも放任の自由でなくきびしい愛と責任のある自由でなくてはならぬ。子供は東京の一流大学に、汗水流がして自慢していると、〇〇運動とかで時代のちよう児となつている。全学連の委員長のような話など、大学になんのために入つたのかもちろん勉強のためだろうが、親の心子知らず、実にとんでもない盲点があつたものだ。